

## ● 外部評価委員会の評価と意見

**県内景気**は、新型コロナの影響が和らいだものの、人件費・物価・エネルギー価格の高騰、人手不足の深刻化等の影響のほか、コロナ関連融資の返済本格化も相まって、予断を許さない状況が続いています。

こうしたなか信用保証協会においては、新型コロナの影響に加え、東日本大震災や自然災害からの復興・再生、金融機関と適切なリスク分担の推進に加え、諸情勢の影響を受ける県内中小企業者に対し、関係機関と連携した資金繰り支援や経営支援等のサービスを提供していくことが求められます。

このような状況下で令和3年度からの3年間の事業実績をみた場合、全体的に適正な業務運営がなされており、以下のとおり評価できます。

**保証部門**については、新型コロナや震災の影響を受けている中小企業者に対してはコロナ借換保証である伴走支援関連制度や震災関連制度などの政策保証を中心に資金繰り支援を行いつつ、中小企業者の状況に合わせ責任共有制度を推進するなど金融機関とのリスク分担の推進も図ったことが窺えます。また、創業、事業承継関連制度の活用のほか、令和4年度に限度額を増額した「継続サポート（どっしりくん）」の推進など、中小企業者個々のニーズに応じた取り組みも認められます。

これら取り組みの結果として毎期保証承諾は計画を上回っており、金融機関との連携を図りながら中小企業者への資金需要に積極的に対応したことが窺え、評価できます。

一方、ゼロゼロ融資の返済据置期間満了のピークが到来したことや企業倒産の増加などから、今後は債務残高の減少が予想されます。これまで以上に中小企業者に寄り添った支援に努めていくことで、地域経済のセーフティネット機能としての役割を果たされることを期待します。

**期中管理・経営支援部門**については、経営者の高齢化や後継者不足による休廃業の進行に加え、人件費・物価・エネルギー価格の高騰、人手不足の深刻化などから中小企業者の抱える経営課題は多様化、複雑化しており、これまで以上に経営支援の取り組みの重要度は増えています。

こうしたなか、創業者に対応した「創業がっちり！サポート」の推進やライフステージやニーズに応じた各種セミナーの開催のほか、経営安定化支援事業を活用した企業訪問や専門家派遣の実施など各種取り組みにより中小企業者に寄り添った支援に努めたことは評価できます。

また、『ふくしま経営支援連携協議会』をはじめ関係機関との勉強会やセミナー、シンポジウム等の開催は、関係機関との連携・支援体制の強化の取り組みとして評価できます。

とりわけ、女性活躍プロジェクトチーム「雪うさぎ」が初めて主催した「女性創業者応援セミナー」や「ワンポイント派遣」の創設などは、中小企業者のニーズに合わせた新たな取り組みとして大いに評価できます。

今後は、これまで以上に中小企業者のライフステージや実情に応じた経営支援の取り組みを推進し、公的保証・支援機関として県内経済の活性化・下支えに寄与されることを期待します。

**回収部門**については、回収実績は年々減少しているものの、震災と原発事故という福島県特有の現状に加えコロナ禍における中小企業の業績低迷等を踏まえ、債務者個々の実情を勘案した回収に取り組んでいることが窺えます。また、コンビニエンスストアによる振込回収の開始やサービスの有効活用のための委託基準の見直しなど、効率化を図った点は評価できます。

しかしながら、新型コロナを背景とした業績悪化による返済の延期要請など今後も厳しい回収環境の継続が見込まれ、加えて代位返済の増加も懸念されています。今後も引き続き効率的かつ効果的な回収に向けた取り組みを進めていくことを期待します。

**その他間接部門**については、人材確保・人材育成の取り組みに加え、業務効率化や電子化、ペーパーレス化の取り組み、また組織改正の実施など、業務の継続的改善、質的向上を図る取り組みが窺えます。また、金融トップ座談会や防災シンポジウムの実施など地域貢献の取り組みに加え、とりわけ全国の信用保証協会では初となる「健康優良企業認定書（銀の認証）」の取得などの健康経営の取り組みや「イクボス宣言」などは、公的機関としての存在意義や価値を高めたものとして大いに評価できます。

引き続き、組織力の向上や財務基盤の強化、システムの安定運用、コンプライアンス態勢の充実・強化、災害時における事業継続のための態勢強化により、経営の透明性及び健全性を確保し、信頼性の維持に努めることを期待します。